

新刊紹介



現代建築のトリセツ

摩天楼世界一競争から
新国立競技場問題まで

著者：松葉一清
(まつば・かずきよ／
建築評論家・武蔵野美術大学教授)
発行：PHP研究所
新書：263ページ
版型：新書
定価：820円(税別)

「現代建築」とはなんなのか、社会的にどんな役割を担うべきなのか、創作に携わる現代建築家とはどんなひとで、彼らはなにを目指しているのか。どのような専門教育を受け、なにを考えているのか。

建築評論家であり、大学教授でもある著者の松葉一清氏が「現代建築」と真正面から向き合い出した答えが本書である。

「現代建築」を理解すれば、わたしたちが日常を送っている世界の本質が見通せるようになるはずである。「現代建築のトリセツ」がしっかり頭に入ると、「社会の見取り図」を手にすることができ、ビジネスをはじめ、広い意味で「今を知りたい」意欲的なひとには、「目からウロコ」の部分もあると松葉氏。著者は本書で「現代建築」の裏も表も光も闇もやさしく解き明かしている。

また、「わが国はよくいわれているように土建国家であるが、それは全否定

されるべきものではなく、そこには盛んな建設行為が保証されていて、そのぶん意欲的な建築が出現する土壌があると見なせるから」という。わが国は「土建国家」のおかげで、有能な現代建築家を輩出する国として、米国に次ぐ評価を受けており、丹下健三にはじまり、磯崎新、黒川紀章と続き、安藤忠雄、伊東豊雄を経て、妹島和世、坂茂らまで、世代の切れ目がないほど国際的な人材を輩出していると述べている。

本書はそれらを端的に理解できる「トリセツ」が必要なのだと考え、取りまとめた「現代建築」の取扱説明書である。

政治も経済も文化も、建築にはその時代の価値観が全て反映される。街の見え方が変わり、社会の仕組みが見える現代建築ガイドの決定版。

「現代建築を理解すれば、私たちが日常を送っている世界の本質を見通せるようになるはずです」と著者は言う。